

科目名	スポーツアナリティクス特論			
開講学期	1年次秋学期、2年次春学期			
教員氏名(カナ)	永野 智久(ナガノ トモヒサ)			
単位数	2			
授業実施方法	対面授業			
教育の実務経験の有無	無	ノートPCの利用	毎回の授業で使用	
実務経験	該当なし			
キーワード	スポーツアナリティクス、テクノロジー	アクティブラーニングの実施	有	
授業の目的と概要	本講義は、スポーツにおけるデータの収集・分析・活用のプロセスを体系的に学び、経営・マーケティングとの共通理解を深めることを目的とする。本講義で扱うスポーツアナリティクスは、収集・蓄積されたデータの分析から得られた情報を、目的に応じて活用することである。近年の企業経営・マーケティングと同様に、スポーツの現場でも、コーチやプレイヤーの勘や経験に基づく主観的な意思決定に加えて、データや情報に基づく合理的な意思決定との融合が重要とされている。本講義を通して、スポーツ現場におけるデータサイエンスと経営・マーケティングの結びつきについて議論し理解を深める。			
到達目標	1	スポーツにおける課題解決のためにデータを活用できる		
	A+	データが適切に活用できる		
	A	データが活用できる		
	B	データがある程度活用できる		
	C	データの活用が不正確なことがある		
	F	データの活用ができない		
	2	スポーツにおけるデータ活用の現状を他人に説明ができる		
	A+	スポーツにおけるデータ活用の現状を完璧説明できる		
	A	スポーツにおけるデータ活用の現状を説明できる		
	B	スポーツにおけるデータ活用の現状をある程度説明できる		
	C	スポーツにおけるデータ活用の現状の説明が不正確なことがある		
	F	スポーツにおけるデータ活用の現状を説明できない		
	3			
	A+			
	A			
	B			
	C			
	F			
	4			
	A+			
A				
B				
C				
F				
5				
A+				
A				
B				
C				
F				
履修上の注意				
教科書・教材				
基本方針	適宜、講義内またはGoogle Classroom等で共有します。			
必須/推奨	書籍名/資料名	出版社	出版年月	備考
ディプロマポリシーに掲げる能力と授業の対応				

ディプロマポリシー（大分類）		対応
D1	社会・企業・組織が持つ経営上の課題、社会的課題を見出す能力	
D2	課題解決に役立つデータサイエンスに関する汎用的な知識とスキル	
D3	(1) の能力を起点に (2) を重ね合わせ、社会・企業・組織が持つ経営上の課題、社会的課題を具体的に解決し得る方策を導き出す能力・スキル	○
D4	(3) で得られたソリューション（解決策）を社会等に訴求すべく具体的に働きかけるコミュニケーション力と行動力を備えたスキル	◎
D5	データ社会において (1) ～ (4) の一連のプロセスで発生し得る倫理上の課題を適切に認識する能力を備えたスキル	
成績評価方法	以下の項目を総合して評価します。 (1) 各回の課題提出状況：50% (2) 個人ワーク・グループワークの成果 (=実践度)：30% (3) 最終レポート課題：20% (4) 3回以上の欠席があった場合は単位を修得することはできません。	
試験・レポート等に対するフィードバック	各回で個別にフィードバックし、全体で共有する時間を確保します。	
授業時間外の事前事後学修		
	内容	学習時間
事前学習	事前課題や実施内容に沿った知識や必要に応じてプレゼンの準備をする。	2.5 h
事後学修	実施内容の振り返りを通して、知識(または実践力)として定着させる。	2 h
授業計画		
1	イントロダクション：本講義の目的と内容について全体像を理解する。	
2	スポーツアナリティクス概論：多様な事例を通して、スポーツアナリティクスの全体像を理解する。	
3	スポーツとテクノロジー：スポーツ界で活用されているテクノロジーについて理解する。	
4	スポーツのデータ活用事例レビュー：事例を通して、スポーツ界におけるデータ活用について理解する。	
5	野球におけるデータ活用（収集・分析・共有）について事例を通して、理解を深める。	
6	サッカーにおけるデータ活用（収集・分析・共有）について事例を通して理解を深める。	
7	スポーツアナリティクスの現場から（1）実践的な事例を通してスポーツ現場の課題とその解決方法の理解を深める。	
8	スポーツアナリティクスの現場から（2）実践的な事例を通してスポーツ現場の課題とその解決方法の理解を深める。	
9	ワーク（1）スポーツ現場におけるデータサイエンスと経営・マーケティングの課題を共有し、取り組むテーマについてのプレストを通して議論する。	
10	ワーク（2）データの収集方法を議論し、実際にデータを収集しながら整理する。	
11	ワーク（3）テーマに応じて収集したデータを集計・分析しながらグループで議論する。	
12	ワーク（4）分析した成果を最終プレゼンとして伝えるための準備をする。	
13	プレゼンテーションとディスカッション	
14	まとめ：本講義を振り返り、スポーツアナリティクスについての理解を深める。	
SDGsとの関連性		
8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基礎をつくる		